

テーマ 地場産業

「モノづくり」から「コトづくり」へ、遊び感覚を取り入れた事業展開

長崎蒲鉾水産加工業協同組合

組合内部、組合外部との関係性と共感性を大事に、遊び感覚を取り入れ「長崎かんぼこ王国」を建国。長崎市長を名誉国王に、長崎特産すり身を生かした「長崎おでん」ブランドの確立を図る

背景と目的

長崎県は豊富な水産資源（魚種、漁獲量）に恵まれ、事業所数は全国一多いにもかかわらず、水産練り製品出荷額は全国16位に甘んじている。また、全国平均よりも速いスピードで高齢化と人口減少が進み、事業者としても域外市場の開拓、並びに飲食業界などの外部関連団体との連携が戦略的課題になっている。

事業・活動の内容

商工会議所、経済同友会長崎青年会議所等で構成された「都市戦

略策定検討会」の提言を基に、長崎市長をトップとした「長崎サミット」の肝いりで、「水産練り製品の生産規模拡大とブランド化、販路拡大」が採択された。それに基づき、当組合が推進母体となり産官学を巻き込んで、平成23年2月22日に長崎市長を名誉国王とし遊び感覚を取り入れ、「長崎かんぼこ王国」が建国された。更に、長崎県の「もろかるブランド体制支援事業」の認可を受け、「長崎おでん」のブランドづくりに向け、①PRグッズの作成、②県内県外イベントへの出展、③組合独自商品開発、④外部との関係性構築による販路開拓などの王国としての活動を開始した。

活動の成果

建国8ヶ月の現状は、王国国民（会員企業）30社のうち「長崎かんぼこ王国」の国民として積極的に



長崎おでん七箇条

活動している企業は10社である。一方、既に王国と連携して独自の製品開発を進め、内閣総理大臣賞受賞や有名タレントの結婚式の引き出物として全国的に話題になるなどの成果も生まれている。「長崎かんぼこ王国」の活動が、いずれ静観者の焦りを誘い、火を点けることになるように、外部の力を戦略的に巻き込んで活動の渦を巻き起こしたいとしている。

長崎蒲鉾水産加工業協同組合

住所：〒851-1101
長崎県長崎市京泊3丁目16番33号
設立：昭和47年8月
出資金：143,020千円
電話：095-850-2211
URL：<http://www.surimi.or.jp/>
業種：水産加工業
会員：30人
組合専従者：61人（うち専従理事1人）